



平成 26 年 12 月 12 日

各 位

会社名 : 株式会社 メガネスーパー
代表者 : 代表取締役社長 星 崎 尚 彦
(JASDAQ コード番号 : 3318)
問合わせ先
役職・氏名 : 取締役執行役員管理本部長 齋藤 正和
TEL 0465-24-3611 (代表)

平成 27 年 4 月期第 2 四半期累計期間における特別利益及び特別損失の発生 並びに業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

記

1. 特別利益の発生理由

当社は、投資その他の資産を含めた事業に供しない遊休資産については、売却を推進しております。そのなか、投資有価証券及びゴルフ会員権の売却を実施し、それぞれの売却益を「有価証券売却益」として 5 百万円、「ゴルフ会員権売却益」として 1 百万円を計上しております。

以上から、当第 2 四半期累計期間の特別利益は、8 百万円となりました。

2. 特別損失の発生理由

当社は、第 2 四半期累計期間におきまして、「中期経営計画」の趣旨に則り、現在の施策に合致せず、先の業績低下が見込まれる、あるいは立地状況が変わり新陳代謝が必要であると考えられる 55 店舗の閉鎖計画を前倒し、実行しております。

この閉鎖を行なった店舗の建物（建物付属設備（内装工事費）含む等）を「固定資産除却損」として 85 百万円を計上しました。また、今後閉鎖を予定している店舗の建物（建物付属設備（内装工事費）を含む）及び賃貸借契約の中途解約に伴う敷金保証金の違約金等の閉鎖費用を「店舗構造改革費用」として 276 百万円を計上しております。これにより、閉鎖が完了する当期末時点での販売管理費は、現在の水準より 10%程度の低下が見込まれ、収益構造が改善します。

また、閉鎖店の敷金返還が貸主会社の財務状況により長期化しておりましたが、同社が不動産を売却することにより一定額の返還は受けたものの差額 37 百万円を含め、「その他」として 42 百万円を計上しました。

以上から、当第 2 四半期累計期間の特別損失は、410 百万円となりました。

3. 平成 27 年 4 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値との差異

(平成 26 年 5 月 1 日～平成 26 年 10 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 8,400	百万円 △240	百万円 △340	百万円 △650	円 銭 △21.87
実績 (B)	7,200	△587	△677	△1,135	△20.32
増減額 (B-A)	△1,200	△347	△337	△485	—
増減率 (%)	△14.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 4 月期第 2 四半期)	7,340	△1,130	△1,273	△1,371	△56.65

<概況>

第2四半期累計期間を通じた既存店売上前年比は、過年度の既存店売上前年比と同様の100%超えを継続し、粗利では、単価改善が継続し、当第2四半期累計期間を通して売上高総利益率が3ポイント改善し、67.3%となり、収益力が大幅に向上しております。既存店売上前年比で、8月は、108.3%を実現し、3月の増税前の駆け込み需要のような追い風に依存することなく、営業利益ベースでの単月黒字化を達成いたしました。加えて、資産除去債務費用の影響を除いた償却前営業利益(EBITDA)ベースでは第2四半期において黒字転換を果たしております。

また、販管費の削減に努め収益構造が変化したことから、損益分岐点の売上高は、本日開示の「中期経営計画(期間:平成26年4月期~平成29年4月期)における進捗状況と、コスト構造改善に伴う中期経営計画の修正について」に記載の通り大幅に低下しておりますが、消費税増税の反動や消費マインドの低迷により十分な客数の伸張が見られなかったことから、当社が当初予想しました売上高までは回復出来なかったことから上記の通り営業利益・経常利益において予想との乖離が発生しました。純利益においては、上記の特別損失の影響がありました。

以上